

千葉県公立高等学校入学者選抜改善検討会議（第2回）【概要】

日 時：令和5年5月15日（月）
午後4時30分から午後6時20分まで
会 場：千葉県教育会館本館301会議室

1 出席委員（名簿順）

真田 範行 委員 渡部 茂樹 委員 大和 政秀 委員 石塚 由乙 委員

※ 欠席の藤ヶ崎委員は、書面にて意見を提出

2 次第

(1) 開会の言葉

(2) 県教育委員会挨拶

(3) 報告（非公開）

千葉県公立高等学校入学者選抜改善検討会議第1回の概要について

(4) 協議（非公開）

ア 採点誤りの原因について

イ 採点誤りの再発防止に向けた具体的な改善点について

(5) 閉会の言葉

3 会議内容（抜粋）

(4) 協議

【採点誤りの原因について】

（事務局）第1回検討会議での協議を受け、4点でまとめた。

(1) 採点期間については、他県と比較して極端に短いわけではなく、特段問題無いとしている学校がある一方、採点者一人当たりの答案枚数が多くなり、長時間の採点業務により集中力の欠如等につながった学校もあると考えられる。

日程については、日数・時間の長短に加え、午前中に授業を行った後、午後に採点を行ったり、採点期間中に追検査を実施したりするなど、採点だけに集中できない状況により、集中力の欠如等につながったことも考えられる。

(2) 配点・解答用紙について、令和5年度の検査問題は、符号、短答、記述などが混在しており、配点も設問ごとに異なっていた。また、複数の解答が正しい場合にのみ正答とする完答式問題も混在しており、問題自体が複雑な構成となっていた。そのため、解答用紙についても複雑な構成となっていた。

以上のような問題構成や配点、解答用紙の複雑さから、採点誤りが生じたと考えられる。また、解答用紙については、小問の得点を記入する欄が設けられておらず、記入場所を各校で定めていることも、小計や集計の誤りにつながったと考えられる。

(3) 採点者の意識については、校長、教員対象の調査結果等から、採点者の集中力の低下や慣れなど、正確性を期すことに対する意識が足りなかったことが誤りの主たる要因と考えられる。

採点においては、採点済みの答案の点検の際に、採点を行った者の処理は正しいという心理が働き、点検者が誤りを見落とししたケースや得点記入の文字が乱雑で、集計する者が数値を読み誤ったケースなどが報告されている。

なお、(1)の日程と受検者数との関係から、学校によっては、多くの答案を採点しなければならない状況となり、集中力の持続に影響したことも考えられる。

(4)点検について、県教育委員会は、実施細目等において複数の職員で採点に加え、点検を1回以上行うことを示し、これを基に各学校が採点マニュアルを定めている。全ての学校が、県の指示に則った採点マニュアルを整備しており、採点マニュアルの内容に不備があったとは言えない。

また、点検の回数を増やすことで誤りの数は減らせるが、誤りが全てなくなるとは考えにくい上、回数を増やすことで採点者の負担が大きくなり新たな誤りが生じる可能性も出てくる。そのため、点検回数に誤りの原因があるとは言いきれない。

(委員) (1)日程で、集中力の欠如という言葉が何度かでてきているが、「集中力の低下」とするべき。採点誤りがあったため、採点方法の話になっているが、実は採点業務は試験監督後に行っている。監督も緊張感を持ってやっている。それに続いて採点がある。採点だけでなく、入試業務全体で緊張感を強いられているということを知っておくべき。

「小問の得点記入欄を各校で記入場所を定めていることが、小計や集計の誤りにつながった。」という表現については誤解を与えるため、小問の得点記入欄がないことが、小計や集計の誤りにつながったという表現にしてほしい。

(委員) 配点、解答用紙のところで「問題構成や配点の複雑さによって誤りが生じた。」とあるが、これは確かに原因の1つであるが、問題を作る上で致し方ない。例えば、国語の文章題を作るときに、文章の流れに沿って設問を作る。出すべき問題を、解答用紙のまとまりを考えて作るということが適切かという問題がある。問題の構成は気にせず小問の得点記入欄を設けることで採点のしやすさを考えてもらいたい。

(委員) (4)マニュアルを整備していたので「内容に不備があったとはいえない。」という結論となっているが、そう言い切れるか疑問が残る。

(委員) マニュアルが整備されていて、それに沿って学校は実施していると思う。やっていることも間違っていないと思う。でもヒューマンエラーが出てしまう。

(委員) 誤りの原因は1つではなく、「限られた時間の中で、続けて長時間の採点や、採点業務のみに集中できない状況に置かれていた。」、それから「解答用紙についても配点が複雑な場合があった。」等、総合的な作用で採点誤りが生じたのではないかと。

【採点誤りの再発防止に向けた具体的な改善点について】

事務局より説明

- ・デジタル採点システムについて、動画を基に説明。
- ・他都道府県のマークシート及び令和5年度千葉県学力検査をマークシートにした場合のサンプルシートについて、映像を基に説明。

(委員) 完全マークの他県と現行の記述式が多い千葉県を比べると対照的で、どちらが考える力を伸ばす設問かは明らか。受検者が書くということは大事だと思う。

(委員) 前回の会議では、記述が多少あった方がよいという意見があった。コスト、安全性の問題をクリアできれば、マークシートでもいいと思う。

(委員) デジタル採点とマークシートは別のものなのか。

(事務局) システムは別だが、同じ解答用紙で、マーク部分はマークシートとして読み取り、記述はデジタル採点システムで扱うことができる。他都道府県では同じ解答用紙で両方扱っているところもある。デジタル採点とマークシートは両方同時でも、分けてもできる。デジタル採点よりもマークシートの方が採点自体は楽なため、併用式の方が採点者の負担は少ない。

(委員) 他県のものを見てみると、マークシート記載方式の良い例と悪い例が書いてある。マークの仕方が分からない、消しゴムで消して、マークしてあるのか、していないのか、そういったものが出てくると思う。それを正解とするか不正解とするかのマニュアルはどう考えるか。

(事務局) 今の段階で言うのは難しい。読み取り精度が高い機器もある。読み取り精度は県で統一した基準にできる。記述問題は専門の教科の先生が行い、ダブルマークなどのマークシート部分の見直しは芸術や体育の先生とかが行うこともできる。また、エラーになっているものに対してチェックする機能はつけられると思う。

(委員) マーク部分について、正解にするか不正解にするかは各学校判断か。

(事務局) 基本採点は学校ごとなので、学校になると思う。その部分を含めて、どのようなマニュアルにするのか検討が必要。

(委員) 予算の方は大丈夫か。

(事務局) 提言の中でデジタル採点やマークシートが有効ということであれば予算を取る努力をするので、必要な対策を提言いただきたい。

(委員) 千葉県は記述式が多いが、マークと記述の割合は決められるのか。他県では証明問題などの記述は出てこないところもある。この採点システムを入れることによって、それが崩れる懸念がある。

(事務局) 記述とマークの割合についても、改善策の提言をいただくところで御教授願いたい。

(委員) 中学3年はマークシートに慣れているのか。

(事務局) 公立高校としては今まで行っていないが、私立高校では行っているところもある。中学校の模試等でどのくらい扱っているかは調査をしないと分からない。事前にサンプルは提示できると思う。

(事務局) 改善点について、第1回検討会議の協議をもとに6つの論点を「現状」、「課題」、「第1回検討会議で出た意見等」で整理した。

論点1 日程

(事務局) 現状として学力検査後から合格発表までの日数は、5日間であり、採点のみを行うための臨時休業日を各学校で設定することもできるが、午前中に授業を行ってから、午後採点をする日もある。また、その日数には、追検査や判定会議用の資料のまとめや判定会議、合格発表の準備も含まれているため、採点に当てられるのは実質2日～2日半程度となっている。そのため、限られた時間の中での採点・点検作業となり、受検者の多い学校においては、採点者に負担がかかっていることが課題として挙げられている。また、授業を行ってから採点を行うことで、集中力が維持できないという課題もあり、改善策として「日程の確保」が挙げられた。ただし、令和6年度選抜においては、学力検査から合格発表までの日数をこれまでより1日延ばし、6日としている。

(委員) 採点日数を増やせば、採点にあたる延べ人数が増えることとなり、余裕は生まれるだろうが、人が採点をしている限りミスが完全に防げるものとは思えない。

(委員) 今年度から1日増えるという話だが、採点期間が3日から3日半に増えることで、ゆとりが生まれる。まずこの形でやってみてはどうか。

(委員) 日数的には学校の事情も様々であるが、大変な学校に合わせるしかない。日数は6日とっていただけるとありがたい。日数があるだけでなく、日数の使い方は各学校で細目を作っているが、それも見直すべきで、県教委から指示する方がよい。

(委員) 採点に専念する日数を増やすように努力することも必要。

論点2 配点、解答用紙

(事務局) 配点は2～12点と多岐にわたる。また、1つの解答で点を与える問題と、複数解答を完答で点を与える問題が混在しており、それらの問題についても順不同で出題されている。さらに、異なる配点の問題、記述式と選択問題が混在しており、複数の担当者が採点・点検をする際に、配点が複雑で、誤認や見落としなどの誤りが生じやすい状況となっている。また、担当者ごとに枠外に小計を書くが、解答用紙には小計の記載欄がなく、記載場所が統一されていないため、見落としや書き漏らしが起きている。

(委員) 改善点をまとめるにあたって、ハード面（日程等）、ソフト面（問題や解答用紙の作成等）に大きく2つに分割して考えてはどうか。採点方法は、マークシートを導入するという大きなところになってくるので、採点方法は別項目にする。問題及び解答用紙に関すること、例えば、論点2、3は一緒にできると思う。解答用紙のレイアウトを工夫するとか、小計の記入欄など、出題に関することをまとめてみたらどうか。

論点3 出題・採点方法

(事務局) 令和5年度選抜の学力検査問題における選択問題は、国語で100点中33点分、数学で8点分、英語で60点分、理科で48点分、社会で61点分となっていた。採点については、大半の学校が答案に直接採点を行っており、部分点のある問題を国語科・数学科・英語科・理科・社会科の教員が中心に採点し、記号・選択・短答問題を5教科以外の教員中心に採点する学校が多い。

採点の課題としては、部分点のある問題の基準作りに時間がかかること、長文、記号、短答問題が混在しているため採点の担当箇所が飛び飛びになることが挙げられる。

(委員) マークシートを導入した場合、記述式は残してもよいが、受検者の思考力を問う問題であっても、簡易な採点となるようにしてはどうか。記述についての重み付けがどの程度なのかによっては、敢えて記述式にこだわらずとも、よいのではないかと考える。難関校でマークシートでの差がつきづらい場合は、3校で取り入れている「思考力を問う問題」で対応すればよいのではないかと。私立難関校でもマークシートを採用している現状からみて、記述なしでも学力検査はよいのではないかと。

(委員) 記述が大事というのは申し上げている通り。そこで培われるだろう考える力、思考力を問う問題をマークで問うという論点もあるが、自分で考えて言葉を書いていくということに関して、入試が入口となって勉強していく側面もあるので、そういったことがなくなると、学校教育も変わっていくのではないかと危惧する。

(委員) マークシート100%はいかがなものかと思う。ただ、大きな改革をするときは割り切りが必要。どの問題をマーク、記述にするかをもう一度考えて、割り切ってマークの比率を多少あげることも必要なのではないかと。先生の働き方改革も進んでいない中で、割り切りも必要である。

(委員) 問題の作成は大変なので非常に難しい問題。思考力を問う問題がないと、中学生は勉強してこない。入試にこういう問題が出てくるから、ここまで勉強するということがあるので、千葉県としては譲らない部分があってもよい。なるべく今までの千葉県のパターンは残してほしい。

(委員) この問題に関して、検討会議で、どちらの方向性が良いかを導くのは難しい。教育長、教育委員会がどう考えていくかということで、この点は両論あってもよいと思う。

論点4 点検の方法や回数

(事務局) 現在、採点に対し1回又は2回の点検を行っており、点検1回の学校と2回の学校は、ほぼ半々である。

多くの学校では、採点后、点検を行い、その後、抽出答案を点検し、そこで誤りがあれば答案の再点検を実施している。県教育委員会からは、採点と点検を、複数の担当者により複数回行うよう指示している。

課題は、他者が採点した答案を点検するため、採点誤りに気付きにくいことが挙げられている。そこで、答案をコピーし、2系統で採点している学校もある。ただ、この方法については、誤りの数を減らすことはできるが、時間と人手が必要となる。また、点検が2回の学校は、1回の学校より誤りの件数は少ない傾向にあるが、それでも3割程度の学校で誤りが生じている。

(委員) 点検の方法や回数については、今までやってきた教育委員会からの指示や、学校が実際にやっている採点や点検については、新たに何かではなく、このままでいいのではないか。今までのやり方に、合否のボーダーライン付近の点検をプラスする形が良いのではないか。「合否に直結すると思われる受検者の答案については再点検を慎重に行う。」等、県教委からの考え方をここで取り入れる。ボーダーライン付近の点検については、採点誤りがあるということを理解した上で、こういう対策をしていくということを示していくことが必要である。

(委員) 現状で抽出答案の点検をしているが、ボーダーライン付近の点検と組み合わせて、ボーダー付近の答案を抽出して点検する。そして、誤りがあれば再点検するという方法はどうか。

(委員) ボーダー付近の1点、2点差の答案数は多いのではないか。合否ラインから何点の範囲で点検するかは検証しているのか。5点の範囲、10点の範囲とか。下手をすると受検者数の半分くらいにならないか。

(事務局) 1点で何人も動く学校もある一方、定員に満たない学校もあり、どのくらいの受検者が対象となるか、一概には言えないが、基準を定めないといけない。日程が1日増えているので、抽出の代わりにということであれば、負担感は少なく済むが、基準作りは県で考えないといけない。

(委員) 2系統の採点が確実だと思うが、デジタル採点システムだと、どのようになるのか。

(事務局) デジタル採点システムだと、2系統で採点し、あとでそれを突き合わせるが、それもデジタルで自動となっている。紙で突き合わせる必要はないので、2系統の突き合わせはしやすくなっている。

(委員) 採点は2系統にし、さらに、ボーダーライン点検もよいと思う。

論点5 教員の意識

(事務局) 現在、各学校では、誤りが起きないように、校内で役割を分担して採点業務を行っている。また、校長が採点前の朝の打合せで声かけをしたり、採点会場へ足を運んだりして、職員の意識を高めている。県教育委員会が主催する会議・研修会で、他県の採点誤りの事例を周知するなどし、注意喚起している。

ただし、課題として、他者が行った採点を正しいものと捉えてしまう傾向があること、採点と採点の合間に授業を行わなければならないため、集中しにくい面があること、限られた時間の中で採点業務を行っており、疲労などにより集中しにくい面があることなどが挙げられる。

- (委員) 気合と根性のような意識の向上はどうでもいい。先ほどの2系統や、ボーダーライン点検とかを深めていけばよいのではないかと。人は間違えるものなので。
- (委員) 先生方はまじめにやっているが、エラーは出る。教員には、対教育委員会という意識もある。教育委員会は改善点を示しつつ、教員の気持ちを考えることも大切である。
- (委員) 意欲をかきたてるような施策を教育委員会に考えてもらいたい。
- (委員) 大学では、入試に関する業務は全てにおいて優先されると言われている。予定を空けるのは当然のことという意識でやっている。
- (委員) 高校は入試をやりながら授業も行うため、在校生の授業時間確保の考えがあるので、昔みたいに生徒を休みにできない。
- (委員) 大学の場合は入試のときは授業がないので、そこが違う。

論点6 県教育委員会の関わり

(事務局) 県教育委員会では、入学者選抜実施細目において、各学校で採点マニュアルを定めることを示し、採点体制について、入学者選抜前にチェックリストを用いて確認している。選抜について、校長会、教頭・副校長会、教育課程連絡協議会、実施要項説明会で伝達し、併せて、地区別教頭・副校長会において事故防止の研修を実施しているが、人為的なミスがあることを前提とした対策が必要な状況である。

- (委員) 採点誤りは人の一生を左右するものなので、ノーミスを求めることは必然で、教員の働き方改革より高次である。日数、人を増やしても、開示請求により誤りが判明した場合、最後に行き着く先は「機械による採点へ」となるのではないかと。採点に機械を導入した都道府県では、議論を尽くした結果、機械に行き着いたのではないかと。マークシート対応機器の購入等負担は生じるが、受検者の合否の正確な判定、教員の負担軽減へと一歩を進めたい。今回の改善検討会議が今年で完結することを望む。
- (委員) デジタル採点、マークシートは導入する方向で予算を取ってほしい。教員の意識改革も必要。受検者の人生を左右してしまうことが二度とないようにお願いしたい。
- (委員) マークシートを導入するというのは一致したと思う。マークと記述の割合は議論の余地がある。採点の日数、人員を確保してできるのなら今までやっているはず。ここで区切りとしてマークシートをぜひ導入して欲しい。
- (委員) マークシート導入の流れも理解しているが、記述式をとおして考える力も、あわせて取り入れながら仕組みづくりを考えて欲しい。